



小林月峰「厳島図」

宮島歴史民俗資料館

開館時間

9時～17時(入館は16時30分)

休館日

月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日)、
12月26日～31日

交通案内

宮島棧橋より厳島神社を経て徒歩約20分

広島県廿日市市宮島町57番地
TEL (0829) 44-2019
FAX (0829) 44-0631



歌川貞秀「厳島合戦図」

宮島の略年表

593(推古元年)	厳島神社社殿創建と伝えられる。
806(大同元年)	僧空海(弘法大師)、厳島弥山を開基すると伝えられる。
1146(久安2年)	平清盛が安芸守に任ぜられる。 <small>※この後、平家一門の厳島信仰と神主佐伯景弘の働きにより今日のような社殿が造営される。</small>
1389(康応元年)	將軍足利義満、厳島神社に参拝する <small>※この頃から、内侍の他に社家、供僧が厳島に常住。続いて神社専属の諸手工業者も居住し始める。 ※厳島における市立てが始まり、漸次町を形成、内海の交通・商業の要衝として繁栄する。</small>
室町時代 ↓ 戦国時代	
1555(弘治元年)	毛利元就が陶晴賢を厳島で討つ。 (厳島合戦)
1587(天正15年)	豊臣秀吉が大経堂(千畳閣)を造営させる。
1619(元和5年)	福島正則の改易により浅野長晟が広島藩主となる。 <small>※宮島に町奉行所がおかれる。 ※松島・天橋立とともに「日本三景」と称される。 ※春、夏、秋の市立てがあり、富くじ、大芝居など賑わう。 ※天明・寛政の頃、僧雲巽が杓子を考案したり、井戸を掘るなど公益事業に尽くす。</small>
1868(明治元年)	神仏分離令により廃仏運動が起こり、多くの寺院が廃寺となり、神社も保護を失う。
1899(明治32年)	厳島神社本社などが特別保護建造物に指定される。
1923(大正12年)	厳島全島が史跡名勝に指定される。
1950(昭和25年)	厳島全島が瀬戸内海国立公園に編入される。
1996(平成8年)	「厳島神社」が世界文化遺産に登録される。



資料館の正面玄関

宮島では間口の広い家というのは珍しい。旧江上家は四囲が道路で、完全に一郭を成す500坪の敷地に建てられている。間口が広く、古い商家らしい格子は印象的である。



池のある庭園

旧江上家当時からの池のある庭園は、大きく風致をかえないように配慮して、昭和48年夏に造園改修された。この庭園を囲んで一巡するように展示館が位置しているのは、この資料館の特色の一つに数えられる。

宮島歴史民俗資料館





展示館D 1階

「厳島神社と平清盛」フロアとして平清盛の足跡から世界文化遺産となる今日までの映像資料や年表などを6つのゾーンに分けて展示している。平清盛像や二位尼像をはじめ源平合戦の錦絵や大河ドラマで使用された小物、そして映像シアターなど見どころは多い。



平清盛像



二位尼像(清盛の妻)



展示館D 2階

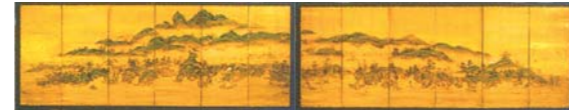
宮島ゆかりの諸家の絵画、屏風、古絵図、古写真、案内記、古文書など主に江戸時代以降の歴史資料や土器類など約400点を展示している。宮島芝居や富くじに関する資料、名所図会などは信仰と観光の島宮島を理解する上で欠くことができない。宮島細工(社景の角盆・宮島彫)、宮島最古の土産といわれる色楊枝などを展示している。



僧誓真像



厳島三保松原図



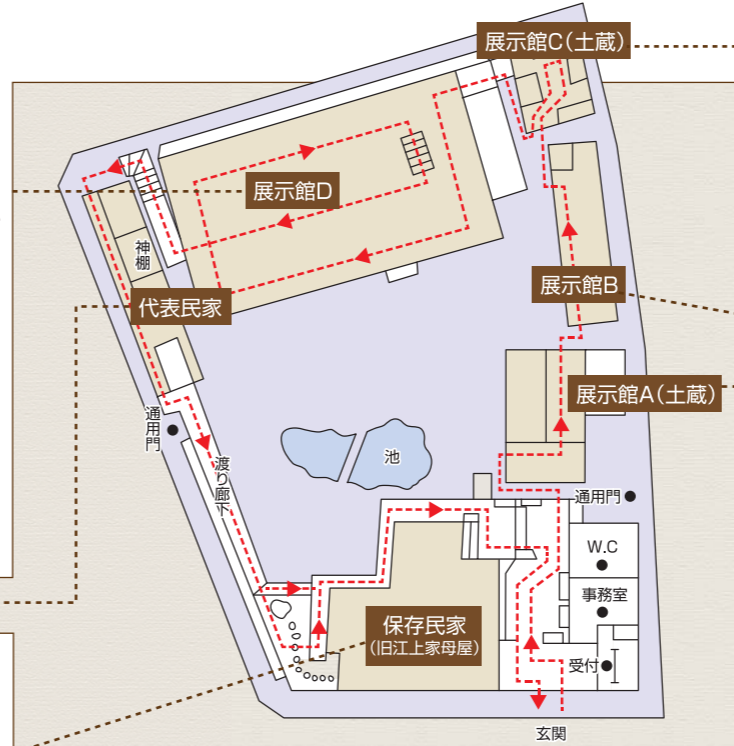
七浦屏風



歌舞伎口上絵



厳島社頭之図



展示館C

宮島の生産・生業といえば木工関係。僧誓真が創始したといわれる飯杓子、ロクロによる盆・菓子器や木匙、宮島彫などいずれも江戸時代後期に興されたものである。それぞれの製作工程・工具・製品、問屋の看板など今日までの変遷を跡付ける資料約100点を展示している。



展示館B

宮島は桃花祭(神能)、管絃祭、玉取祭、たのもさん、氏神祭、鎮火祭などまつり行事が多い。これらの年中行事を写真パネルと関係用具・模型など約70点で紹介している。管絃祭の御座船と漕船模型も展示している。



展示館A

石畳のある土蔵をそのまま保存している。壺・釜・桶や山子鋸など約200点が展示されているが弥山靈火堂からおろした弘法大師ゆかりの消えぬの火の大釜が珍しい。



代表民家

宮島の古い町家は、ふつう間口が狭く奥行きが深い。大戸から入ると奥まで「通り庭」になっており、それに沿ってミセ(表の間) オウエ(中の間) ザシキ(奥の間)と続く。オウエには天井がなく、戸棚の上には神棚がまつられている。神の島宮島の特徴といえる。



保存民家(旧江上家母屋)

母屋は1800年代前半の建築物で文化庁指定の登録有形文化財となっている。江上家は江戸時代後期から明治にかけて醤油の醸造を営み豪商といわれた。座敷から望む庭園は豪商の往時を偲ばせる。また、江上家の人々が使っていたべっ甲の櫛・家紋入りの袱紗(ふくさ)などを展示している。

宮島歴史民俗資料館

宮島(厳島)は、平清盛をはじめとする平家一門の厳島信仰により広くその名を知られるようになり、古くから厳島神社を崇敬する幾多の人々や、戦国時代に形成された門前町の住民に守られ、今日まで「日本三景」の一つと称される美しい景観と豊富な文化財が残されています。

宮島歴史民俗資料館は、こうした宮島の歴史と文化に係わる多彩な資料や、近代化のなかで失われようとしていた民俗文化財の保存と継承を目的としてつくられた文化施設です。

起工 昭和47年9月2日
竣工 昭和48年10月22日
開館 昭和49年4月26日